



第4回 感覚あそびとなつかしさ

子どもたちが赤ちゃんの時期からだんだん成長してくると、何でも口に入れたりなめたりしようとします。この時期のお母さんやお父さんにとっては、心配の種の1つかもしれませんね。口の感覚は、お母さんからミルクをもらう時の安心感にもつながり、子どもたちは、はじめは口の感覚をとても大切にしています。それが次第に、指先や手の感覚いろいろなことを感じるようになります。

手先が使えるようになってくると、身の回りのものを触ってみたり、握ってみたり、時にはやぶってみたりします。これも、親からすると困った行動なのですが、子どもの心の発達にはとても大切です。砂のさらさら、水のぴちゃぴちゃ、のりのベタベタ、新聞びりびり・・・など、手先を通して感じる感覚は、子どもたちの感性を豊かにしてくれます。わたしたち大人も、何かに触れた時に「なつかしい」という気持ちになって癒されることがあります、これには、幼少期の感覚あそびが大きく影響しています。

子どもたちには、のびのびといろいろな感覚を体験してもらいたいですね。KIDS センター Cafe では、家にある素材で、親子で一緒に感覚あそびもご紹介しています。お母さんやお父さんも童心にかえってぜひ一緒に楽しんでください！

たねラボは、金城学院大学 加藤大樹研究室による、心理学の研究成果を地域にわかりやすく伝えていく取り組みです。